首都圏段戸会会報

令和5年9月
第50号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
内山田 邦夫
編集者
広報担当
織田 利彦

会長挨拶

首都圏段戸会会長
内山田 邦夫（高21回）

昨年に続き6月、岡高同窓会総会・懇親会に出席しました。文科大臣賞を受賞するなど全国トップレベルの岡高コーラス部の美声も披露していただき、大変盛況でした。他方、政府の肝いりで岡高が過去十数年取り組んできた「スーパーサイエンスハイスクール」事業は、政府の財政方針の変更から前途厳しい状況で、高校・同窓会の皆さまが頭を悩ませておられました。

当首都圏段戸会との関係では、母校や同窓会のご協力のもと、首都圏段戸会のHPや入会要領を記したチラシを今春から卒業生に配布し始めました。まだ若干名ではありますが、今春卒業生からの入会申し込みも頂いております。首都圏段戸会としては、首都圏生活の新人世代へのサポートを配慮しつつ、今後とも、交流・交歓・活動のハブとして機能して行きたいと念願しています。

❖

10月に予定している恒例の首都圏段戸会総会については、5月にコロナが第5類感染症に移行したことから、ハイブリット方式で開催できるものと予想しています。ただし、新たな変異株の動向も気になるところなので、今後、最終チェックや微調整を図りながら開催を目指すつもりです。

総会以外では、四役会議、運営委員会、世話人会等が適宜切り盛りしてきました。関係者のご尽力により、財政難を回避しつつ、かつ活力アップしつつ運営できているものと考えています。（前回の会報は財政難が危惧されたことから安価な白黒版としましたが、この会報からはカラー版に復帰できました。因みに、白黒版もなかなか味わいがあって良い、との意外な反響も一部にありました。）

各分野の取り組みについては、コロナ禍で活動自粛していた「フォーラム」が第1弾の会合を5月に開催。今後、さまざまな分野・テーマでの「フォーラム」が活発化するものと期待しています。

「サークル」活動については、機動力があり小回りがきくので、コロナの影響が小さかったものやこの1年内に活動復帰済みのものが多いようです。私は四つの「サークル」に所属していますが（音楽会、山の会、胃文化交流会、副業推進会）、プロフェッショナルや経験豊富な方が多いので、常々有益な刺激をいただいています。なお、総会でのBGM演奏を担当している音楽会は、私は総会での会長職の業務に専念したいとの口実で、任務解除中です（真相は、皆さんのレベルに付いて行けないため）。

❖

後になって振り返れば、今年はコロナ禍から正常生活に転換した年、と位置づけられるのかも知れません。とは言え、「転んでもタダで起きない」。コロナ禍の中で身近になったリモートやDXの手法は今後とも有効活用できるはずです。Facebookには、有志らにより首都圏段戸会やサークルの非公開グループも作られています（ただし、Facebookでの個人アカウント登録が必要であるなど、ハードルもあります）。個人情報保護の観点から、当会として強制的にDX化することはできませんが、まずは会員各自が身近なところからDXライフを取り入れ、同期会の交流ツールとして楽しんでいただくことが第一歩かと、思案しているところです。

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

“段戸囲碁会”
（幹事：早川 慎吾　高32回）hayakawa@a00.itscom.net

“段戸音楽会”
（幹事：石川 航己　高58回）koki.ishikawa.49@gmail.com

“段戸句会”
（幹事：野村 親信　高16回）nomurac@jcom.home.ne.jp

“段戸山の会”
（幹事：石川 定雄　高30回）s_ishikawa44@b04.itscom.net

“胃文化交流会”
（幹事：小出 一典　高33回）kazunori.koide72@gmail.com

“副業推進会”
（幹事：加藤 研一　高30回）katosoke@gmail.com

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ

http://dandokai.o.oo7.jp/

首都圏段戸会　検索

パソコンやスマートホンが不得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

第51回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日　　時　令和5年10月28日（土）13：00～17：00
（受付 12：30～）

●場　　所　アルカディア市ヶ谷（私学会館）（右地図参照）
千代田区九段下北4-2-25（TEL　03-3261-9921）
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）
から徒歩2分

総会、講演会はオンライン配信（Zoom）されます。

― 総会・懇親会はお早めにお越しください ―

受付は世話人が対応しておりますが、担当の方々も会員の皆様同様に講演会や懇親会を楽しみにしております。このような事情をご賢察のうえ、できる限り早めに（13：30頃まで）受付をお済ませいただけると幸いです。会員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いします。

●講　演　会　タイトル：オリンピックの舞台裏　－日本陸連強化委員会の取り組み－
講　　師：麻場 一徳（高31回）
山梨学院大学カレッジスポーツセンター教授
同大学陸上競技部部長兼監督
元日本陸上競技連盟強化委員長
リオデジャネイロ・東京オリンピック陸上競技監督

（略歴）
1979年３月　愛知県立岡崎高校卒業
1983年３月　筑波大学卒業
1985年３月　同大学大学院修了
1987年４月　都留文科大学文学部専任講師
2002年10月　都留文科大学文学部教授
2016年４月　山梨学院大学スポーツ科学部教授
2022年４月　山梨学院大学カレッジスポーツセンター教授

●懇　親　会　総会終了後、懇親会を「着席バイキング形式」でご用意しております。オンラインによる参加はございません。なお、会費のお支払いは現金でお願いします。
会費：7,000円
ただし、以下の会員には特別割引があります。
若手会員（高61回以降）　5,000円
学生会員（高61回以降の大学、大学院、専門学校等の学生）　2,000円

●招聘恩師（予定：敬称略）

打田　秀行（英語）　　勝田　由美子（英語）

点の広がり

高60回　杉浦　綾香

私は自分のキャリアで明確な目標を定めたことがなく、それ故にふとしたことをきっかけに悶々と悩み、迷走し、最終的には開き直って、日常生活に戻ってくる、というルーチーンを何度も繰り返している。そんな自分が今思っていることを吐き出してみようと思う。最後には、自分が今感じている課題というか、戒めをお伝えする。胸を張ってアドバイスや役に立つ話をすることができずに恐縮だが、常にキャリアに悩んでいる者の「生」の声も何かの参考になるのではないか、と、お恥ずかしながら掲載させていただく次第である。

私は、学生の時も、社会人になっても、基本的に数年先のことしか考えることができず、自分の興味の赴くままにしか進路・キャリアを選んでこなかった。世の中には、まずは最終目標を定めた後それに至る道を逆算し、着々とその道を進んでいく方も多いと思う。自分は確固たる目標を抱いたことはなく、せいぜい3年程度先のことしか見越さずに、その時の自分の興味の赴くままに進む方向を決めるタイプであり、3年が経過する度に次はどうしようと悩むのを繰り返している。

高校時代を振り返ってみると、元々人間の心に興味はあったので心理学に興味はあった。だが、フロイトに代表されるような心理学しか知らなかった高校2年生の夏、人間の研究を実験で行っていることを教育実習生の先輩から伺って大学と学科を決めた。その時の実験内容は「どの程度の段差を人間は段差と認知するか」という内容で、そんなことも実験でわかるのか、と感動したことを今でも鮮明に覚えている。

大学では、人間を動物と対比させることでその特徴を詳らかにしようとする学問があることを知り、人間も動物の一種と考えていた自分は自然とその考え方に惹かれ、研究室を決めた。そこでいろいろと学ぶにつれ、人間のやる気を実験で検証できると知り、その原理がわかればやる気が衰えやすい自分でもやる気を楽に出す事ができるようになるのではないか、というかなり下心的な発想から研究テーマを決め、卒業研究、修士、そして博士まで研究を続けてしまった。それだけ研究しても興味は尽きず、学位取得後はアメリカにて研究員も経験した。自分には医学のバックグラウンドはなかったものの、患者から取得したデータの解析を行うことができると聞き、その先生を頼ってアメリカまで行ってきた。そこで行っていた研究も大変興味深いものではあったが、このまま基礎的な研究を進めても、実際の場面で役に立つ可能性は限りなく低いことを改めて認識し、基礎研究で理論をこねくり回すよりも試行錯誤を繰り返す実践の方が有意義なのではないか、と半ばあきらめの境地に達してしまい、アカデミアに残るのではなく、一般就職という道を選ぶことにした。もちろん、日本食が恋しくなったという面もあるのは否定しない。海外で仕事ができるか否かは、英語やスキル以上に現地の食事に耐えられるかにかかっている、と主張する人もいるくらいだ。自分は大きなオーブンで肉の塊を焼くことにハマっていたため、意外と耐えられたほうだったとは思うが、一時帰国で食べた日本の食べ物の美味しさに帰国を固く決意したことは正直にお伝えする。今はコンサルタントとして、企業向けにデータの解析を行いながら、研究や論文執筆のサポートを行っている。これまでとは違う分野に飛び込んだため解析手法を再度学び直すことにはなったが、これまでの知識が無駄になったわけではなく、思わぬところで過去の知識が役に立ってホッとしつつ、学ぶことの多いバタバタとした日々を送っている。

サンクスギビングに焼いたターキー

さて、こんなときに思い出すのが、アップルの創業者であるスティーブ・ジョブス氏が2005年にスタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチである。このスピーチ自体は、社会的に成功を収めたものが後続に送るものとして大変有名だが、今の自分は少し違う解釈をしており、それが自分からお伝えしたい戒めである。このスピーチには、彼が"Connecting the dots"と題したメッセージがある。ジョブスは大学を中退してから、興味本位で文字をアートのように書くカリグラフィーの講義を受けたらしい。それはすぐに役立つ実用的な知識やスキルではなかったが、10年後、Macを開発する際にその知識を活かすことで、美しいフォントを持つOSが生み出されたという。彼はこの経験から、将来を見据えてすべてのスキルを身につけることはできないため、自分が興味を持って学んだものはいつか役に立つ、いつか点が線で繋がる、と信じてやっていくのが良い、と大変前向きなメッセージを残してくれている。だが、今の自分はこの言葉を、戒めとして受け取っており、これが今の自分がお伝えできる最大限のアドバイスであると思っている。それは、人間とはこれまでの経験や知識でしか成り立っておらず、これまでに身につけてきた「点の広がり」が、自らの幅を規定してしまうため、より広く物事に興味を持つべきである、という教訓である。もちろん情報が溢れている現在で、世の中で起こっているすべての事象について興味を持ち、理解することは不可能であることは重々承知である。だが、ただただ流れていく情報の濁流を受動的に眺めているだけではなく、能動的に自ら興味を持ってその濁流をかき分けていくだけの好奇心と気力は、忘れてはいけない、と自分に言い聞かせている。

様々なものに興味のアンテナを広げ、その都度興味の赴くままにキャリアを決めていく自分が最終的にどこにたどり着くか、自分でもまったくもって予想がつかない。それ故に時折どうしようもない不安に駆られたりもするのだが、そんなあてのない人生というのもいいんじゃないのかな、と開き直って、また日常生活に戻ろうと思う。

猫から建築まで

高43回　比護　結子

物心ついた頃から高校3年生の夏まで、自分は獣医になる、と思っていました。幼少の頃自分は猫だと思っていたり、捨て猫や鳥のヒナを拾ってきては助けられなかったりで、いつかは動物を助けられる人になろう、と決めていたのです。しかし高3の夏、動物病院でお手伝いをしてみて、大好きな動物にメスを入れられない、という致命的なことに気が付きました。さてどうしよう…、いろいろな職業を探して目にとまったのが建築でした。そういえば、絵が得意で、秘密基地をつくったり、自分の部屋の模型を作ったり、屋根に登って遊んだりするのが好きだったっけ。建築もいいかもしれない。しかし、理系の生物選択で物理を取っていなかったので建築学科を受験できないことがわかり、生物でも受験できる住居学科を選ぶことになりました。大学は鹿が住む奈良女子大学。今思えば、動物から離れられなかったのかもしれません。

大学では主に住宅建築について学びましたが、奈良公園のすぐそばで授業の合間に大仏殿に行けるほどだったので、実物を見ながら日本建築を学べる環境でした。ただ、いろいろな建築を知るうちにもっと建築を学びたいと思うようになり、東京工業大学の大学院に進むことにしました。大学院の2年間で建築の視野はかなり広がりましたが、そこで住宅建築の面白さを再認識して民家の調査研究に参加し、パキスタンの民家を調査して修士論文にしました。

キチ001 事務所兼自宅

修士を出てからしばらくして大学院の先輩と設計事務所を開設しますが、最初は仕事がなくアルバイトをしながら活動する日々。そんな中、個展で一輪挿しを購入された方から「こんな家を建てたいんだけど…」と電話がありました。個展から2年程経ってのことでした。小さな土地で厳しい予算でしたが時間は十分にあったので、工事現場に通って職人さんにいろいろ教えてもらい、試行錯誤しながら完成させました。それを雑誌やテレビに取り上げてもらって次の依頼がきて、それから20数年、なんとか仕事が絶えずに続いています。

建築家は正解を知っていて土地を見れば完成形が浮かんでくる、と思われたりするのですが、私はそんなことはなくて何年経っても悩みながらつくっています。周辺の環境、地形や歴史を調べ、使う人の暮らしを考えながら、法的条件や性能基準をクリアした上でこの先どんな建築だったらいいのだろうかと考え続けます。小さな住宅でも完成させるまでにはたくさんの模型をつくり、クライアントやスタッフと議論して様々な可能性を探りながら進めていきます。それでも完璧にできたと満足できることはなく、ある時先輩に「もしかして満足したら仕事ができなくなっちゃうのかしら?」と打ち明けたところ「大丈夫。一生満足できないから。」と言われて、そういうことかと腑に落ちました。

悩みながらつくり続けた住宅作品を俯瞰してみると、それぞれの環境や制約に合わせて素材や空間構成、ディテールを考えているので、スタイルといえるものはないのですが、いくつか共通の要素が見えてきます。一つは玄関がなく、その代わりに土間空間があること。これは特に意識していることではなくて自然につくっていった結果、そういえば玄関ないね、という感じなのですが、その背景には学生時代に研究していた日本の民家の影響があるかもしれません。農家でも町家でも、かつての日本の民家には玄関というスペースはなくて、台所や商・農作業の場などを兼ねた土間があって、そこから内部に入ることが一般的でした。現代の住宅においても、土間空間は家の内外を繋げられるスペースとして様々な生活スタイルや周辺環境と意外に相性がよくて、ご近所さんとのおしゃべりや、動物や植物と共存できる場、小商いや趣味の場など、いろいろ重宝されています。

もう一つは、猫的空間であること。突然ふざけた言い回しのようですが、真面目に建築の話として、猫を観察して学んだことが空間づくりに影響しているように思います。20代の頃に師匠から「獣医を目指していたのなら、猫と犬、空間の違いはなんだと思う?」と問われ、答えられない私に師匠が「猫は垂直方向、犬は水平方向」と教えられたことをきっかけに、猫的空間って何だろうか、と考えるようになりました。例えば、カーテンとサッシの間の10センチほどのスペースにいる猫。この場所は景色がよく日当たりのよい場所で、外に近いのに室内からほどよく遮られたセミプライベートスペース。猫はよくここで寝ていたり怒られたときに隠れたり、自分のスペースとして使っていて、この窓辺を人のスケールでつくってみたら人にとってもいい場所になるかもしれないとか、猫のように気候に応じて居心地のよい場所を寝床にする生活も悪くない、など日々考えているのです。空間構成としても、人の動線となる間取りではなくて、光や風が回り込むように立体的に空間を繋げていくと、それもまた猫的な空間ができあがります。以前はこんな話は恥ずかしくてあまり公

ナガレノイエ
photo by Masao Nishikawa

言してこなかったのですが、最近猫好きな建築家仲間と「けんちくねこ部」という部活動のようなものをつくって真剣に猫と建築について語り合ったりしています。18歳まで動物を助けることを目指してきた私ですが、今は猫に助けられて仕事をしているような気がしています。

「オペラ『銀河鉄道の夜』」初演を終えて

高38回　桃井　聖司

去る6月10日（土）・11日（日）、名古屋市芸術創造センターにて、名古屋オペラ協会創立40周年記念公演として、宮澤賢治原作、桃井聖司脚本・作曲による「オペラ『銀河鉄道の夜』」が初演されました。ダブルキャストによる2日間4公演は、約650人収容のホールがいずれの回もほぼ満席となり、延べ2500人ほどのお客様にこのオペラを鑑賞していただきました。奇しくも今年は宮澤賢治没後90年に当たり、宮澤家を題材にした小説『銀河鉄道の父』が映画化されるなど、賢治人気、銀河鉄道人気が昂まっている中での上演でした。これほどたくさんのお客様に作品を観ていただいたことは、この上もなく光栄で喜ばしいことであり、私の作曲人生において大変貴重な経験となりました。

オペラ『銀河鉄道の夜』公演チラシ

振り返ってみると、『銀河鉄道の夜』原作を私が初めて読んだのは、小学生のときでした。当時は松本零士さんの漫画『銀河鉄道999』がヒットし、テレビアニメの放映を毎週欠かさず観ていました。アニメの中で銀河を疾走する汽車の元ネタが宮澤賢治さんの小説だと知った私は、書店で文庫本を購入し読んでみました。ところが、その小説には漫画やアニメのワクワクするようなイメージはあまり無く、何だか難しくて小学生の私にはとても理解しきれませんでした。それでも不思議と心の奥底にひっかかる何かが残ったのを覚えています。

大人になってゲーム音楽や映像音楽の分野から作曲の仕事を始めた私は、2000年くらいから舞台音楽を多く手掛けるようになり、自ら脚本を書き音楽を付ける創作スタイルでいくつかのミュージカル作品を発表しました。そんな中で、ずっと心にひっかかっていた『銀河鉄道の夜』を舞台化したいと密かに思い描くようになりました。その機会は2005年にやってきました。故郷岡崎市での音楽フェスティバル参加をきっかけに、ミュージカル形式で『音楽劇〝銀河鉄道の夜〟』を創作し初演。それを皮切りに、名古屋、瀬戸、東京、博多の各地で再演を重ね、私の代表作とも呼べる作品に成長しました。

幻想的な銀河鉄道乗車シーン

感動のカーテンコール

『銀河鉄道の夜』原作は、作者の人生観、宗教観が色濃く反映されるとともに、天文学、化学、農学の知識がふんだんに盛り込まれています。その重厚な小説を舞台化するに当たり、物語に内包された多種多様な主題の中で、現代の我々が共感しやすいものを抽出して脚本を書きました。また、どちらかといえばこの物語は悲劇に当たりますが、私はあえて明るい曲調を多く用いて作曲しました。音楽劇を創作した数年後に花巻市を訪れ、賢治さんの弟の清六さんのお嬢さん、賢治さんから見れば姪御さんに当たる宮澤潤子さんとお会いし、お話させていただく機会がありました。「宮澤賢治という作家にストイックで寡黙なイメージを持つ人が多いが、実際の賢治さんは陽気で周りを楽しませるようなエンターティナーだった」という貴重なエピソードをうかがって、私の創作方針は間違っていなかったのだと確信できました。

そして今回、名古屋オペラ協会よりお声がけいただき、これまでセリフで演じて来た部分のほとんどをレチタティーボ（歌唱による会話）に置き換えた「オペラ改訂版」初演の機会を得ました。私自身初めてのオペラ創作であり、創作の行程は必ずしも平坦ではありませんでした。セリフからレチタティーボへの書き換えにとどまらず、オペラという表現形式を踏まえた合唱シーンの追加、各登場人物の歌声が映えるようなアリアの追加など、オペラへの改訂作業中にもどんどんと構想は膨らみ、最終的には全体の3分の2超が新たに書き足した楽譜となりました。そうやって苦心した甲斐あって、完成した作品は満足のいく仕上がりになったと自負しています。出演されたオペラ歌手の皆様には、稽古中よりこの作品を愛し、それぞれの役を真摯に演じていただきました。さらに指揮の倉知竜也さん、演出の馬場紀碧さんはじめ、照明、音響、衣装、舞台のスタッフの皆様の研ぎ澄まされたプロの仕事に助けられ、本番のステージは本当に素晴らしい仕上がりとなりました。4公演全てを客席から観ましたが、自作品ということを忘れ涙が止まりませんでした。改めて今公演に関わられた全ての関係者の皆様に、深い感謝の意を表させていただきます。

「オペラ」という形式は、何百年もの時間をかけて綿々と技術が培われてきた総合芸術です。実際に自分でオペラを創ってみて、その表現の奥深さと可能性

に改めて魅了されました。もしまたオペラを書く機会があれば、こうしてみたい、ああしてみたいとさまざまに構想を巡らせ、そう遠くない将来に別の題材でオペラを創れたらいいなと次なる野望を抱いています。想いは必ずかなうのだと信じ、これからも創作に邁進していく所存です。

知られざる大学職員の役割

高53回　石井　貴大

皆様こんにちは。私は２００１年に岡高卒業後、早稲田大学に進学し、そのまま母校の大学職員となりました。職員と聞いてもピンとこない皆様も多いと思いますので、ここではその仕事の一端を紹介したいと思います。

大学職員の役割は、大学の運営に必要な多岐にわたる業務を遂行することです。具体的には、つぎのようなものがあります。

1. 学生支援業務…学生の就学支援や進路相談、就職支援、留学支援、学生生活全般のサポートなど
2. 教育・研究支援業務…入試・カリキュラム策定、科目登録、成績評価、研究業績の管理、研究補助の提供、研究施設の運営管理など
3. 組織運営業務…学部・大学院・研究所の会議・運営管理、人事・労務、予算・財務管理、広報、情報発信、国際交流など
4. 大学行政業務…大学の方針決定や中長期プランの策定、内部監査、規約の制定など
5. 社会貢献活動…地域貢献活動、地域・産業・官公庁との連携事業、校友連携、国際貢献、スポーツ振興など

大学職員は、教員組織と強く連携しながら、これらの業務を通じて大学を安定的に運営することが求められています。教員と職員の間柄でいうと、主に事務・実務面を行うのが職員で、大きな方向性を決めたり判断したりするのが教員という捉え方もできますが、両者の関係性は大学により大きく異なります。少なくとも早稲田大学は、教員と職員はフラットな関係であり、お互いが積極的な議論や提案をしながら大学運営に携わっています。また、大学の最高議決機関は評議員会でありつつ、各学部・研究科に一定の裁量権や専権事項が存在しており、必ずしもトップの上意下達ではない点も面白い（難しい）点といえます。

私はこれまで大学院法務研究科（ロースクール）、総長室秘書課、所沢総合事務センターに勤務し、それぞれまったく違う業務を経験してきました。制度導入まもない頃の法科大学院にいたときは、法律の現場に新しい風を吹かせるための教育はなにか、理想に燃えて日夜議論をしていました。その後、秘書課では総長秘書を担当し、私大の雄としての役割を担い、大学教育の最先端に立ち続ける総長の姿を垣間見させていただきました。いまは所沢総合事務センターにて、人間科学部のカリキュラム策定や、新しい教員人事制度（テニュアトラック制度）の策定と実行に携わっています。最近は、急激に台頭してきた生成ＡＩ（ChatGPT等）に大学としてどのように対処すべきか、先生たちと議論を交わしています。

あまり表にでて目立つことのない大学職員ですが、実は結構ダイナミックな仕事をしていることがおわかりになると思います。私が大学職員に興味をもったのも、大学という広大なキャンパスを舞台に、躍動する教育現場の最先端にいられると思ったからです。皆様におかれましても、それぞれの母校に思いを馳せるとき、その裏で多くの職員が活躍していることに気づいていただけると嬉しいです。

トレッキングに訪れた
スイス・ツェルマットにて

WEB懇親会報告

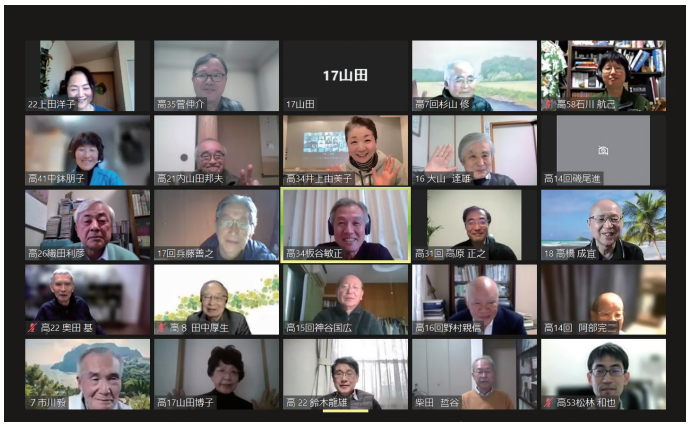
高41回　中鉢　朋子

去る２０２３年２月19日午後３時より、首都圏段戸会オンライン懇親会が催されました。この会には高３回から高58回の方までの幅広い年代より、総勢約40名の方が参加されました。以下にその模様をご報告いたします。

前半では、井上副会長の司会・進行のもと、内山田会長からのご挨拶、各サークルからの活動報告、画面上の「ホワイトボード」への書初め（落書き?）、などのプレゼンテーション・参加型活動が行われました。

後半では、高３～高29回までの「シニア部屋」、高30～高49回までの「ミドル部屋」、高50回以降の「若手部屋」、の３つの仮想の「部屋」に分かれての懇親会を行いました。「シニア部屋」は大盛況で、ズームの一画面（私のパソコン上では25名）に全員が納まりきらないほどでした。「ミドル部屋」も盛況となる一方、「若手部屋」は、総勢３名というこぢんまりとした状況になりました。

私は若手部屋にお邪魔しましたが、このこぢんまりとした部屋のおかげで、松村さん（高53）と長坂さん（高56）、石川さん（高58）と、いろいろとお話することができました。嬉しいことには、松



懇親会スクリーンショット

村さんと長坂さんは、首都圏段戸会での集まりへの参加が今回初めてとのことでした。そのような方が参加くださっただけでも、このオンライン懇親会は開催したかいがあったものと思えます。私は皆さんの専門分野についていろいろと質問をしたりして、楽しい時間を過ごすことができました。

仮想の部屋での歓談の時間は、40分程度にて名残惜しくも終了となり、全員が元の仮想の大部屋に再度集まりました。その後、次回の総会の案内、閉会のあいさつを経て、午後4時半過ぎに会はお開きとなりました。参加された皆さんがとても楽しまれた様子でした。運営チームの皆さん、参加下さった皆さん、ありがとうございました。

第26回 段戸フォーラム報告

高58回　石川　航己

2023年5月17日に高30回の加藤研一氏を講師に迎え、第26回段戸フォーラムを開催いたしました。『ビジネスと文学の二刀流』をテーマに加藤氏自身の経験を交えながら、先進企業の取り組みや副業に関連する裁判事例、最近の政府の動きについて、指南いただきました。加藤氏は、上場のIT企業で取締役を勤める傍ら、ミステリー作家としてもご活躍されています。フォーラムでは、新人賞への応募から出版までの裏話や、出版後のプロモーション活動の数々もご紹介いただき、何事にも積極に前向きに取り組んでいる印象を受けました。また、ミステリー作家の他にも、東京大学や福島大学でのベンチャー育成の取り組みも行われて、どれが本業かわからないほどです。この様に活躍する加藤氏が「副業から複業へ」とお話しされると、とても説得力があり、これからの働き方を考える上で大変参考になりました。

今回はコロナ禍明け初の段戸フォーラムでありましたが、多方面のご協力のもと、無事に開催することができました。また、フォーラムの後にはささやかな懇親会も開催され、世代や業界を超えた交流ができる段戸会の良さを改めて実感することができました。

講師の加藤研一氏（高30）

令和５年 首都圏段戸会 世話人名簿

（高2回）	服部　登	
（高3回）	丹羽　鼎	
（高6回）	有馬　弘政	
（高7回）	杉山　修生	
（高8回）	田中　厚夫	
（高9回）	岡田　敏利	
（高10回）	宇佐美　忠之	
（高11回）	太田　栄宏	
	永田　文男	
（高12回）	鶴田　徹	
	成瀬　浩之	
（高13回）	中磯　尾進	
（高14回）	水谷　谷鏡子	
（高15回）	神谷　国広	
	満江　信之	
（高17回）	伊與田　正彦	
	山田　博子	
（高18回）	伊藤　博邦	
	音部　昌宏	
	清水　久雄	
	山内　恵	
（高19回）	福山　透	情報
（高20回）	天野　隆郎	企画
	辻村　太典	
（高21回）	内山田　貴夫	会長
	小栗　邦子	
	山田　恵文	
（高22回）	上田　俊子	広報
	新田　洋之	
	庄　弘浩	
（高23回）	野々山	
（高25回）	内田　寛	
	戸田　譲三	会計監査
（高26回）	織田　彦	事務局長・企画・広報
（高27回）	長田　雄利	会計
	岸　光平	会計
	山崎　洋枝	
（高28回）	酒井　正彦	
	藤井　邦哲	
（高30回）	米津　智徳	
（高31回）	石田　満理	
	高原　正之	副事務局長・企画
	岩間　由紀	
（高32回）	堀内　友二	副事務局長・会計・企画
（高33回）	小出　一典	企画
	鈴木　祐子	
	山本　岳彦	
（高34回）	板谷　敏正	副事務局長・企画・情報
	井上　美子	副会長・企画
（高35回）	糸井　由美	
	小川　由美	広報・書記
	菅　伸季	副事務局長・会員
（高36回）	平松　理介	
（高37回）	稲葉　重生	会計
	庄司　聖浩	
	西川　智志	
	中西　和基	企画
（高38回）	桃井　聖幸	企画
（高40回）	大田　武司	会計
（高41回）	立山　秀利	
	中鉢　朋子	副事務局長・書記
（高42回）	長野　麻子	広報
（高43回）	五十嵐　妙	
（高44回）	松尾　直樹	企画
（高45回）	筒井　之恵	情報
	西浦　輔	
	朝岡　瑞貴	
（高46回）	大川　博大	広報
	杉本　いづみ	会員
（高47回）	佐藤　さお	
（高49回）	丹羽　尚り	
（高50回）	鳥居　福代	情報
（高52回）	清水　雄太	情報
	近藤　佳子	広報
（高53回）	石井　貴大	
	辻内　直子	
（高54回）	安藤　康伸	企画
	石橋　亮博	
	岡田　尚也	企画
	加藤　直子	広報・企画
（高57回）	川口　敦己	
（高58回）	石川　航亮	企画
	岩間　亘	
（高59回）	嶋田　郎	
（高60回）	本多　健太	企画
	杉浦　綾香	
（高61回）	鈴木　貴之	会員
	藤田　槙子	
（高62回）	粟津　文香	
（高63回）	河原　宏太	
	吉兼　峻史	
（高64回）	鈴木　康啓	企画
	扶瀬　聡史	
（高65回）	横字　優年	
	加藤　武里	
（高70回）	柘植　蔵	企画

編集後記

コロナ禍に伴い、首都圏段戸会の財政状況が悪化しましたが、会員皆様からの多大なるご協力により、おかげさまでコロナ禍前の水準に回復することができました。ここに深く感謝申し上げます。コロナ禍当時、支出を極力抑えるために、会報はモノクロ印刷、年1回発行したらどうかという意見も出されましたが、モノクロ印刷ながら年2回発行はなんとか維持いたしました。今回、紙面はご覧の通りカラー印刷です。

さて、本号では冒頭、就任二年目となる内山田会長からご挨拶をいただきました。そのなかで述べられているように、会長は四つの段戸サークルに精力的に参加され、なかでも「山の会　東京散策ツアー」では自らガイド役も担われております。会長の名ガイドを楽しみたい方は是非ともご参加ください。つづいて、コンサルティング会社勤務の杉浦さん、建築家の比護さん、音楽家の桃井さん、大学職員の石井さんと、多様な職種かつ幅広い世代の方々から寄稿いただきました。いずれも読み応えがある記事です。また、初の試みとして行ったWeb懇親会の模様を中鉢さんにご報告いただきました。遠方にお住いの方、高齢の方には大好評で、とりわけ私が担当したシニア部屋は出席者全の方から自己紹介もいただけないほどの超満員でした。次回も乞うご期待ください。なお、コロナ禍で中断していた段戸フォーラムも4年ぶりの開催を果たし、石川さんからご報告を受けました。首都圏段戸会の活動は完全復活です。

（織田）

運営協力金ご支援のお願い

毎年、多数の会員の皆様に運営協力金のご支援をいただき、誠にありがとうございます。運営協力金は総会開催、会報発行、世話人活動など、会の運営を支える原資として大切に使用させていただいております。趣旨をご理解のうえ、本年もご協力賜りますようお願い申し上げます。会報同封の郵便振替用紙に加え、銀行振り込みの利用も可能ですので、ご活用ください。「1口1,000円」とし、できるだけ2口以上のご協力をお願いいたします。

1．銀行振込の場合
　下記の口座にお振り込みください。
　また、振込依頼人名の前に年次をご入力ください。（例：高10回 岡崎太郎様の場合　10オカザキ　タロウ）
　　銀　　行：ゆうちょ銀行
　　支　　店：〇一九店（ゼロイチキュウ店）
　　預金種目：当座　口座番号：0059423
　　口座名義：シュトケンダントカイ（首都圏段戸会）

2．会報同封の郵便振替用紙利用の場合
　これまで同様に郵便局にてお手続きください。なお手数料はご本人負担とさせていただきます。

令和4年度運営協力金協力者芳名

バナー広告　岡崎信用金庫
バナー広告　税理士法人みらいパートナーズ
バナー広告　プロパティデータバンク株式会社
バナー広告　田辺総合法律事務所
バナー広告　LOVSTガーデン西葛西店
(中49回)　村松義定
(高2・中51回)　今井敏夫　柄崎脩一
志賀茂　武田弘之
名城政次郎　服部登
(高3・併23回)　阿部恭道　今泉剛
宇津野隼千　加藤正義
久保雅之　後藤三千代
左右田健次　丹羽鼎
松井淳子　米津勇美
(高4・併24回)　成瀬榮二
(高５回)　杉浦郁子　杉浦正健
平野右子
(高６回)　長瀬けい子
(高７回)　市川毅　大林通浩
近藤衛　斎藤悦子
杉山修　是津定利
永田綾子　吹抜敬彦
三井豊美　村田輿市
(高８回)　小野勝巳　杉浦嘉久
田中厚生
(高９回)　石原軍子　片野英司
金井豊　香酒井時良
小山孝子　盛
高木治子
(高10回)　安藤哲生　安藤登
宇佐美忠利　太田信朗
鈴木靖子　山田敏
山本馨　山本眞司
(高11回)　青木かゑ子　市川晃三
梅村豊子　太田栄之
幸村初彦　永本多慶宏
服部豊治　本多慶成
村田正雄　山崎宣典
(高12回)　稲垣早苗　岩月一詞
大林房子　影山清四郎
川西基裕　倉橋弘
近藤祥子　杉浦宏明
杉浦満智子　杉山文男
堤三郎　鶴田文徹
内藤雅彦　成瀬重
(高13回)　新井康夫　坂本隆仁
柴田重徳　杉浦忠之
杉原洋　中平浩吾
原田忠　野源正
藤田弘　多本
眞木宏哉
(高14回)　阿部完二　天野彰
磯尾進　磯村澄
伊奈田二　郊垂江
太眞忠澄　岩貞一
金澤幸　大粂田弓
笹瀬修　都築義
長井佐紀子　中野英
牧野隆介　水谷元
佐野公治　満江雄
(高15回)　佐野信子之

山田智男
(高16回)　大口康子　大山達雄
木村隆義　鈴木貞雄
鈴木勢津子　鈴木多恵子
鈴木弘恵　野村親信
丸山和紀子　宮崎勉
早稲田嘉夫　渡邉雅利
(高17回)　大野泰熙　河津邦雄
近藤康男　佐伯寛子
佐々木春實　竹嶋栄子
中野房子　兵藤善之
深谷美智子　武藤隆子
山田博子
(高18回)　新井史子　伊藤博邦
加藤正晴　川喜田隆司
佐口正義司　杉山孝博
竹内義人　幡本裕一
牧野友厚　柵本孝
山内恵　山本俊彦
(高19回)　岩瀬正紀志　鈴木好則
須藤裕志　都築正行
野澤信一　則竹千恵子
福山透　村木央明
(高20回)　天野隆太郎　有我譲
伊与田あさ子　内山久美子
遠藤昇　大林市郎
小野行雄　神尾由恵
北野光敏　木村和明
清水徹　関戸博高
辻村貴典　成田雅則
野村金次　細井土夫
矢吹清　吉原誠
(高21回)　足立純一　渥美忠男
天野茂　生駒仁志
内山田邦夫　斉藤布美江
柴田芳孝　戸田正人
早川久右衛門　兵藤幸治
矢田金市　山田俊文
(高22回)　上田洋子　木下平
斉藤光保　酒井真知子
新庄弘之　杉浦一孝
鈴木龍雄　鈴木裕美子
棚橋みさ子　中村賢治
長谷川章雄　渡辺嘉一
畝部和則　小田利枝子
永井寛
(高23回)　高田邦夫
(高24回)　明保治男
(高25回)　内田寛　稲垣智子
竹本仁　岡田弥生
戸田妙子　戸田譲三
(高26回)　安藤幸司　大山知子
織田利彦　畔柳誠
杉浦明夫　杉浦伸明
内藤勝之　中嶋克宜
日高克二　
(高27回)　臼井博哉　長田光雄
岸洋平　久保みのる
荘保也　杉浦ひとみ
八田欣也

(高28回)　大賀裕　三紀志
三枝奈芳　太田也寸
長坂信人　酒井邦彦
藤井哲　中嶋誠子
(高30回)　石川定雄　大谷佳司
岡本和也　加藤研一
西川英徳　森川さとみ
米津智丈　伊与田義信
犬塚淳　杉浦章一
小林正之　高山将
高原紀　野村美亨　原えつ
(高32回)　臼田友二
堀内寿子　木村敦
(高33回)　浅井出典　滝睦美
小野口謙吾　八田耕太郎
松田かおり
(高34回)　板谷敏正子　井上由美子
岩崎陽一　神戸伸輔
鈴木宏二　高橋智江子
森俊　安田峯次
吉村玲子
(高35回)　糸井真由美　岡田敦嗣
小川美季　金澤傑
菅伸介　古澤昌宏
(高36回)　塩山泰聖　平松理生
(高37回)　有馬俊　安藤孝幸
庄司聖　西川智基
(高38回)　小田志　柴田哲良
中西努
(高40回)　大田和幸
(高41回)　磯谷武　太田絵里
勝部陽子　木村俊哉
重徳敦史　中鉢朋子
(高42回)　秋本和彦　佐藤香里
生田崇之　杉山崇
山田洋平
(高43回)　前田達也
(高44回)　小田雄介　里元麻衣子
竹内知宏　松尾直樹
(高45回)　牧野未帆
(高46回)　浅井充浩　石塚英
大川太郎　小田謙一
竹内達博　本橋祈
(高47回)　佐藤也　杉本いづみ
早崎おさむ
(高48回)　青山宏　羽佐田泰弘
(高50回)　石川周平　岡崎貫治
鳥居義高　前田泰典
(高53回)　松林福代
(高57回)　川口和也　丸尾祐矢
(高58回)　石川敦子　鳥山順丘
(高60回)　杉浦航己　本多健太郎
(高62回)　太田綾香
(高63回)　岩月周作
(高65回)　稲垣憲一　村田有沙
(高70回)　今西葉子
楓